

近畿厚生局長 殿

開設者名 学校法人 大阪
理事長 植木

印

大阪医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

| | |
|--------|-----|
| 研修医の人数 | 58人 |
|--------|-----|

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

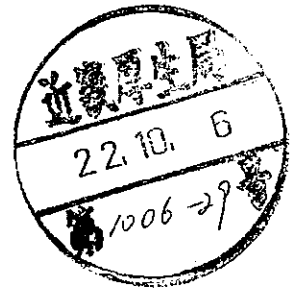
| 職種 | 常勤 | 非常勤 | 合計 | 職種 | 員数 | 職種 | 員数 |
|-------|------|------|--------|---------|-----|------------|------|
| 医師 | 478人 | 158人 | 503.6人 | 看護補助者 | 83人 | 診療エックス線技師 | 0人 |
| 歯科医師 | 12人 | 15人 | 13.9人 | 理学療法士 | 19人 | 臨床検査技師 | 66人 |
| 薬剤師 | 49人 | 6人 | 51.9人 | 作業療法士 | 5人 | 臨床衛生検査技師 | 0人 |
| 保健師 | 0人 | 0人 | 0.0人 | 視能訓練士 | 8人 | その他 | 0人 |
| 助産師 | 15人 | 3人 | 16.7人 | 義肢装具士 | 0人 | あん摩マッサージ指圧 | 0人 |
| 看護師 | 755人 | 21人 | 772.1人 | 臨床工学技士 | 14人 | 医療社会事業従事者 | 6人 |
| 准看護師 | 8人 | 2人 | 9.6人 | 栄養士 | 2人 | その他の技術員 | 10人 |
| 歯科衛生士 | 2人 | 0人 | 2.0人 | 歯科技工士 | 2人 | 事務職員 | 110人 |
| 管理栄養士 | 15人 | 1人 | 15.9人 | 診療放射線技師 | 43人 | その他の職員 | 124人 |

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|--------------------------------|-------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 646.6人 | 4.0人 | 650.6人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1,891.9人 | 87.0人 | 1,978.9人 |
| 1日当たり平均調剤数 | 入院 721.9剤、外来 338.0剤、合計 1059.9剤 | | |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|-----------------------------|-------|
| 抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DST法) | 9人 |
| 超音波骨折治療法 | 0人 |
| 色素性乾皮症の遺伝子診断 | 6人 |
| マイクロ波子宮内膜アブレーション | 4人 |
| 腹腔鏡下肝部分切除術 | 3人 |
| 膀胱水圧拡張術 | 4人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|---------|-------|
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|-----------|--|-------|---|
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾 患 名 | 取扱患者数 | 疾 患 名 | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病 | 55人 | ・膿疱性乾癬 | 1人 |
| ・多発性硬化症 | 80人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 6人 |
| ・重症筋無力症 | 111人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 74人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 342人 | ・重症急性膵炎 | 10人 |
| ・スモン | 5人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 40人 |
| ・再生不良性貧血 | 44人 | ・混合性結合組織病 | 64人 |
| ・サルコイドーシス | 99人 | ・原発性免疫不全症候群 | 5人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 41人 | ・特発性間質性肺炎 | 5人 |
| ・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 299人 | ・網膜色素変性症 | 100人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 91人 | ・プリオン病 | 1人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 27人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 6人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 284人 | ・神経線維腫症 | 20人 |
| ・大動脈炎症候群 | 23人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 0人 |
| ・ビュルガー病 | 10人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 0人 |
| ・天疱瘡 | 5人 | ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 3人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 57人 | ・ライゾーム病 | 2人 |
| ・クローン病 | 135人 | ・副腎白質ジストロフィー | 1人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 3人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 1人 |
| ・悪性関節リウマチ | 22人 | ・脊髄性筋委縮症 | 0人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 253人 | ・球脊髄性筋委縮症 | 2人 |
| ・アミロイドーシス | 7人 | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 23人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 10人 | ・肥大型心筋症 | 8人 |
| ・ハンチントン病 | 1人 | ・拘束型心筋症 | 0人 |
| ・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症) | 31人 | ・ミトコンドリア病 | 3人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 17人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 1人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 98人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 0人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | 0人 | ・黄色靭帯骨化症 | 0人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 0人 | ・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 44人 |

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|---------------------|----------|
| ・ 膀胱水圧拡張術 | ・ |
| ・ 腹腔鏡下肝切除術 | ・ |
| ・ 内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術 | ・ |
| ・ 実物大臓器立体モデルによる手術計画 | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 1ヶ月に10回程度 |
| 部 検 の 状 況 | 部検症例数 25 例 / 部検率 6.90% |

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|------------------|-------------|-----------|-------------------|
| モデルマウスを用いた劇症1型糖尿病治療法の開発 | 花房俊昭 | 糖尿病代謝・内分泌内科 | 1,700,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 劇症1型糖尿病患者血清の蛋白質間相互作用解析を用いた新規インスリン様分子の同定 | 寺前純吾 | 糖尿病代謝・内分泌内科 | 1,900,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 多施設共同研究：劇症1型糖尿病の診断マーカー同定と診断基準確立 | 花房俊昭 | 糖尿病代謝・内分泌内科 | 1,700,000 | ③補委 厚労科研費 |
| 発症直後患者臍組織を用いた劇症1型糖尿病発症鍵分子の同定とその検証 | 今川彰久 | 糖尿病代謝・内分泌内科 | 1,300,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 心サルコイドーシスの病態診断と治療に関する研究 | 寺崎文生 | 循環器内科 | 900,000 | 補委 藤田保健衛生大学 |
| メタボリックシンドロームにおける低酸素応答による酸化プロテオミクス | 林哲也 | 循環器内科 | 500,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 「車椅子エコノミークラス症候群」の実態調査とその予防対策 | 木村文治 | 神経内科 | 600,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 間質性肺炎合併皮膚筋炎における疾患関連マーカー蛋白の定量プロテオミクスによる探索 | 武内徹 | 膠原病内科 | 1,000,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 生活習慣病としての慢性萎縮性胃炎および胃癌発生におけるアディポネクチンの意義 | 樋口和秀 | 消化器内科 | 700,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| エンテロウイルス感染マーカーとしてのMDA-5発現に関する研究 | 浮村聡 | 総合内科 | 600,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 物忘れ受診患者におけるVSRAD解析結果と神経心理学検査との相関の検討 | 岡本洋平 | 精神神経科 | 500,000 | ③補委 財団法人大阪認知症研究会 |
| 幻覚妄想状態と伴う認知症患者における薬理遺伝学的研究 | 康純 | 精神神経科 | 500,000 | ③補委 杉田記念脳研究助成基金 |
| 進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標的治療法確立に関する研究 | 谷川允彦 | 消化器外科 | 500,000 | ③補委 厚生労働科学研究費補助金 |
| 治癒切除後の再発リスクが高い進行胃がん（スキルス胃がんなど）に対する標準的治療の確立に関する研究 | 谷川允彦 | 消化器外科 | 500,000 | ③補委 厚生労働科学研究費補助金 |
| プロテオミクスを用いた大腸癌特異抗原結合自己抗体同定による新規診断マーカーの開発 | 藤田能久 | 消化器外科 | 2,400,000 | ③補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 消化器腫瘍におけるmicroRNAの発現異常と発癌への関与についての検討 | 高城武嗣 | 消化器外科 | 2,000,000 | ③補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 脊髄障害防止の観点からみた胸部下行・胸腹部大動脈瘤外科治療ないしはステントグラフト治療体系の確立 | 勝間田敬弘 (分担研究者) | 心臓血管外科 | 500,000 | ③補委 厚生労働科学研究費補助金 |
| ラットでの大動脈弁狭窄術後肥大心筋の治癒過程の研究：エプレソン投与は有効か？ | 小澤英樹 | 心臓血管外科 | 1,200,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |

小計

18

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|-------|--------|-----------|--------------------------|
| 大動脈術後の脳障害関連遺伝子スクリーニングと指標となる脳障害血清タンパクの検索 | 三重野繁敏 | 心臓血管外科 | 1,600,000 | ③補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 5-ALAと自家蛍光の二重蛍光スペクトル解析による高精度脳腫瘍同定方法の開発 | 黒岩敏彦 | 脳神経外科 | 1,000,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 生体内δ-アミノレブリン酸とポルフィリン誘導体の細胞内輸送機構および薬物動態の解明とヒト悪性脳腫瘍に対する新規光線力学療法の開発 | 黒岩敏彦 | 脳神経外科 | 273,000 | ③補委 医工連携プロジェクト |
| 脳虚血モデルにおけるエリスロポエチンの脳保護作用の検討 | 宮武伸一 | 脳神経外科 | 1,750,000 | ③補委 中外製薬共同研究費 |
| 新規診断神経膠芽腫に対する硼素中性子捕捉療法を中心とした治療プロトコル確立に関する研究 | 宮武伸一 | 脳神経外科 | 9,990,000 | ③補委 厚生労働科学研究費補助金 |
| 蛋白質セラピー法と中性子捕捉療法による難知性がん治療法開発 | 宮武伸一 | 脳神経外科 | 2,000,000 | ③補委 厚生労働科学研究費補助金(分担者) |
| 硼素中性子捕捉療法によるCancer Stem Cell治療抵抗性克服の試み | 宮武伸一 | 脳神経外科 | 3,000,000 | ③補委 研究機構OMC学術フロンティア研究奨励金 |
| 加速器中性子源による癌中性子捕捉療法の高度化に関する研究 | 宮武伸一 | 脳神経外科 | 3,735,022 | ③補委 原子力基礎基盤研究委託事業 |
| 脳腫瘍の光線力学診断・治療法の最適化：高効率光源の開発と高感受性物質の分布解明 | 梶本宜永 | 脳神経外科 | 1,000,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 脳血液および脳脊髄液環境における血管虚脱の影響の包括的研究 | 梶本宜永 | 脳神経外科 | 327,240 | ③補委 医工連携プロジェクト |
| 中性子捕捉療法及び光線力学的治療双方に利用可能な新規硼素化ポルフィリンの有用性 | 川端信司 | 脳神経外科 | 900,000 | ③補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 蛋白質導入法の移植・再生医療ならびに脳腫瘍治療への応用を目指した基盤研究 | 川端信司 | 脳神経外科 | 3,000,000 | ③補委 武田科学振興財団特定研究助成金(分担者) |
| 骨髄間質幹細胞を用いた錐体神経細胞分化誘導と、脳梗塞に対する移植再生治療法の開発 | 野々口直助 | 脳神経外科 | 1,400,000 | ③補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 診断治療薬同時包埋リポソームによる悪性脳腫瘍に対する治療効果改善に関する研究 | 池田直廉 | 脳神経外科 | 1,200,000 | ③補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 脳腫瘍治療前後の拡散強調像を用いた画像解析による早期治療効果判定の有用性 | 山田佳孝 | 脳神経外科 | 1,300,000 | ③補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 脱シアロ化短半減期エリスロポイエチン誘導体を用いた中枢神経再生治療法の開発 | 三木義仁 | 脳神経外科 | 1,000,000 | ③補委 科学研究費補助金若手研究B |
| PETを用いた難治性中枢神経腫瘍に対するホウ素中性子捕捉療法の新規適応の可能性 | 宮田至郎 | 脳神経外科 | 1,365,000 | ③補委 科学研究費補助金若手研究スタートアップ |
| 肩インピンジメント：肩甲上腕リズムの生体力学的解析に基づく新しい治療法の開発 | 三幡輝久 | 整形外科 | 2,400,000 | ③補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 生体吸収性を有し骨再生に優れた生体内多孔体化リン酸カルシウムペーストの開発 | 傍島聰 | 整形外科 | 2,000,000 | ③補委 平成21年度JST「シーズ発掘試験」 |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|-------|---------|-----------|----------------------------|
| 生体吸収性を有し骨再生に優れた生体内多孔体化多用途人工骨 | 木下光雄 | 整形外科 | 5,500,000 | 補 平成21年度JST ⑤委 「シーズ顕在化」 |
| 発達障害児における不器用の神経基盤の解明：脳機能画像による疾患別の量的・質的検討 | 柏木充 | 一般小児科 | 1,300,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金基盤研究C |
| 母乳分泌における脂質濃度調節機構の解析 | 瀧谷公隆 | 一般小児科 | 1,900,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金基盤研究C |
| 難治性急性前骨髄性白血病における新規レチノイド化合物の分化誘導機構の解明 | 井上彰子 | 一般小児科 | 1,200,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金若手研究B |
| 乳腺細胞における母乳脂質成分調節機構の解析 | 瀧谷公隆 | 一般小児科 | 1,000,000 | 補 糧食研究会 ⑤委 |
| 母乳分泌における脂質濃度調節機構の解析（乳腺組織における核内受容体群のクロストーク機構） | 瀧谷公隆 | 一般小児科 | 1,000,000 | 補 三島海雲祈念財 ⑤委 団 |
| 卵巣癌におけるイレッサ、アバスタチンの白金製剤耐性解除の検討 | 寺井義人 | 婦人科・腫瘍科 | 1,000,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金基盤研究C |
| 顆粒膜細胞におけるミトコンドリアDNA欠損が卵発育障害をおこすメカニズムの検討 | 山下能毅 | 産科・内分泌科 | 1,100,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金基盤研究C |
| 子宮内膜症に対するMPAの分子標的治療薬としての機能解析とその制御の検討 | 金村昌徳 | 婦人科・腫瘍科 | 1,500,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金基盤研究C |
| 癌幹細胞をターゲットとした卵巣癌の白金製剤耐性機構の解明とその制御 | 田辺晃子 | 産科・内分泌科 | 1,500,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金基盤研究C |
| プロモーターマイクロアレイを用いたトポテカンの新たな分子標的作用の解析 | 佐々木浩 | 産科・内分泌科 | 2,200,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金若手研究B |
| ミュラー細胞におけるコラーゲン産生と特発性黄半円孔の病態に関する基礎研究 | 佐藤孝樹 | 眼科 | 900,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金若手研究B |
| 糖尿病網膜症の硝子体中コラーゲンに対する自己免疫反応と病態との関連 | 池田恒彦 | 眼科 | 1,300,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金基盤研究C |
| 視神経乳頭循環自動調節能におけるgap結合およびグリア細胞の関与 | 杉山哲也 | 眼科 | 500,000 | 補 財団法人大阪ア ⑤委 イバンク |
| 免疫グロブリンBCL6転座キメラ転写産物の定量測定による悪性リンパ腫の予後判定 | 李昊哲 | 耳鼻咽喉科 | 1,100,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金若手研究B |
| 慢性副鼻腔炎における好酸球性炎症に対するプロスタグランジンD2の役割 | 兵佐和子 | 耳鼻咽喉科 | 1,100,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金若手研究B |
| 蝸牛虚血再灌流時における内リンパカルシウムイオンの役割 | 森京子 | 耳鼻咽喉科 | 900,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金若手研究B |
| スギ花粉抗体原特異的IgE生産に関与する細胞・分子の同定 | 金沢敦子 | 耳鼻咽喉科 | 1,400,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金若手研究B |
| 可視光の皮膚アンチエイジング効果に関する基礎的研究～DNA修復能に着目して | 森脇真一 | 皮膚科 | 1,600,000 | 補 科学研究費補助 ⑤委 金基盤研究C |

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|--|--------------|----------|-----------|---|
| 神経皮膚症候群に関する調査研究 | 森脇真一 | 皮膚科 | 1,200,000 | 補委 厚生労働省難治性疾患研究克服研究 |
| 前立腺癌骨転移責任遺伝子の同定と組換えHSVによる癌ワクチン治療 | 勝岡洋治 | 泌尿器科 | 700,000 | 補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 新免疫寛容導入法のメロン遺伝子ゲノム内導入による移植腎永久生着の試み | 東治人 | 泌尿器科 | 4,100,000 | 補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 3種抗体、および、インフルエンザを用いた移植腎生着延長の試み | 東治人 | 泌尿器科 | 1,700,000 | 補委 科学研究費補助金萌芽研究 |
| 自然免疫による移植片拒絶機構について | 能見勇人 | 泌尿器科 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金若手研究B |
| Tregバンク (CD28SA+肝細胞共培養) 免疫寛容+MF1導入: 移植腎永久生着 | 東治人 | 泌尿器科 | 2,900,000 | 補委 科学研究費補助金基盤研究B |
| 小胞体ストレス促進を利用した進行性腎癌治療 | 稲元輝生 | 泌尿器科 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 全く新しい免疫寛容誘導法 “Regulatory T cell バンク作成による術後感作性ドナー特異的免疫寛容療法” (抗体直接投与を行わない) の確立と、臨床応用にいたるまで | 東治人 | 泌尿器科 | 500,000 | 補委 財団法人大阪腎臓バンク腎疾患研究助成 |
| 好中球エラストラーゼ阻害剤による致死的放射線肺障害の防止に関する実験的研究 | 猪俣泰典 高橋正嗣 | 放射線科 | 1,300,000 | 補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| 新規な神経障害性疼痛治療薬の合成技術の開発とその初期安全性の評価 | 南敏明 | 麻酔科 | 1,807,000 | 補委 研究成果最適展開支援事業 A-STEP フィージビリティスタディ (FS) |
| マイクロRNAを指標とした術後慢性疼痛の解明 | 中井國博 | 形成外科 | 1,500,000 | 補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 顔面外傷後の神経因性疼痛に対するSSRI治療効果メカニズムの解明 | 大場創介 | 形成外科 | 1,700,000 | 補委 科学研究費補助金基盤研究C |
| IFN- γ KOマウスでの脱毛とIFN- γ および同種移植による発毛の分子機構の解析 | 岡田雅 | 形成外科 | 600,000 | 補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 安全で高性能な毛髪付複合型培養皮膚の開発に関する実験的研究 | 藤森靖 | 形成外科 | 500,000 | 補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 口腔癌患者における硼素中性子捕捉療法 (BNCT) の臨床効果に関する研究 | 木村吉宏 | 歯科口腔外科 | 1,000,000 | 補委 科学研究費補助金若手研究B |
| 頭頸部癌へのBNCTにトランスフェリン結合型硼素化合物運搬体を応用した基礎研究 | 伊藤雄一 | 歯科口腔外科 | 1,200,000 | 補委 科学研究費補助金若手研究B |
| がんの集学的治療の早期開発研究体制確立に関する研究 | 瀧内比呂也 | 化学療法センター | 1,000,000 | 補委 厚生労働省がん研究助成金20指-7 |
| がんの腹膜播種に対する標準的治療法の確立に関する研究 | 瀧内比呂也 | 化学療法センター | 800,000 | 補委 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 質量顕微鏡によるアミロイド組織内沈着分子プロファイル異常と線維形成阻止法の開発 | 田窪孝行 | 中央検査部 | 900,000 | 補委 科学研究費補助金若手研究B研究 |

| 研 究 課 題 名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金 額 | 補助元又は委託元 | |
|---|--------|---------|---------|------------------|---------|
| 選択的ピロテオミクスを用いた関節液中タンパク解析による関節炎診断マーカーの探索 | 松村 洋子 | 中央検査部 | 700,000 | ③補 科学研究費補助金若手研究B | |
| 脳質周囲白質軟化症におけるオリゴデンドロサイトの細胞内酸化還元電位 | 平 清 吾 | 周産期センター | 700,000 | ③補 科学研究費補助金若手研究B | 小計 3 |
| 脳室周囲白質軟化症発症へのプロゲステロンの関与とその抑制効果について | 山岡 繁 夫 | 周産期センター | 500,000 | ③補 科学研究費補助金若手研究B | 計 78 |

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|--|-------------------------|-------------|
| Endocr. J 2010 Apr 2;57(3):211-9. 2009 Dec 12. | Expression of toll-like receptors in the pancreas of recent-onset fulminant type 1 diabetes. | Shibasaki S | 糖尿病代謝・内分泌内科 |
| Diabetologia 2009 Nov;52(11):2464-5. Epub 2009 Sep 1. | Fulminant type 1 diabetes as an important exception to the new diagnostic criteria using HbA(1c)--response to the International Expert Committee. | Imagawa A Hanafusa T | 糖尿病代謝・内分泌内科 |
| J Gastroenterology 2009; 44(9): 879-888 | Present status and strategy of NSAIDs-induced small bowel injury | Higuchi K | 消化器内科 |
| J Clin Biochem Nutr 2009; 45(2): 125-130 | Prevention of NSAID-induced small intestinal mucosal injury: prophylactic potential of Lansoprazole | Higuchi K | 消化器内科 |
| 消化と吸収 2009; 31(1): 35-38 | 呼吸試験法による慢性膵炎患者の膵外分泌機能評価と今後の課題 | 瀧井 道明 | 消化器内科 |
| 消化器と免疫 2009: 186-191 | 肝細胞癌患者における末梢血好中球分画の検討 | 津田 泰宏 | 消化器内科 |
| 消化器科 2009: 177-183 | 磁場により駆動制御を行う自走式カプセル内視鏡作製の試み | 森田 英次郎 | 消化器内科 |
| J Clin Biochem Nutr 2009: 322-328 | Development of fibrosis in nonalcoholic steatosis through combination of a synthetic diet rich in disaccharide and low-dose lipopolysaccharides in the livers of Zucker (fa/fa) Rats | Fukunishi S | 消化器内科 |
| Progress in Medicine 2009: 761-764 | マウスDSS誘発腸炎におけるキマーゼ依存性MMP-9の活性の役割について | 石田 久美 | 消化器内科 |
| Ulcer Reseach 2009; 36(2): 143-146 | ラットにおけるNSAIDs起因性小腸傷害予防に関する検討 | 依田 有紀子 | 消化器内科 |
| Atherosclerosis 204(2): 359-364 | Effects of chymase inhibitor on angiotensin II-induced abdominal aortic aneurysm development in apolipoprotein E-deficient mice. | 井上 奈緒 林 哲也 | 循環器内科 |
| Eur J Heart Fail 11(3): 229-237 | Suppression of inflammation in rat autoimmune myocarditis by S100A8/A9 through modulation of the proinflammatory cytokine network. | 大塚 薫 寺崎 文生 | 循環器内科 |
| Circulation 119(2): e10 | Images in cardiovascular medicine. Three-dimensional remodeling of cardiomyocytes in a patient with aortic stenosis: scanning electron microscopy. | 神崎 裕美子 寺崎 文生 | 循環器内科 |
| Hum Pathol 40(7): 1015-1022 | High prevalence of chronic myocarditis in dilated in dilated cardiomyopathy referred for left ventriculoplasty: expression of tenascin C as a possible marker for inflammation. | 塚田 敏 寺崎 文生 | 循環器内科 |
| Eur J Pharmacol 623(1-3): 84-88 | Dietary salt restriction activates mineralocorticoid receptor signaling in volume-overloaded heart failure. | 森 龍彦 | 循環器内科 |
| Am J Cardiol 104(11): 1568-1573 | Usefulness of carvedilol to abolish myocardial postsystolic shortening in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy. | 伊藤 隆英 | 循環器内科 |
| J Card Fail 15(10): 898-905 | Incremental prognostic values of serum Tenascin-C levels with blood B-type natriuretic peptide testing at discharge in patients with dilated cardiomyopathy and decompensated heart failure. | 寺崎 文生 | 循環器内科 |

小計

17

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|---|--------------------|---------------|
| J Atheroscl Thromb | Clinical significance of calcification in ascending aorta as a marker for the requirement of coronary revascularization. | Hoshiga M | 循環器内科 |
| Int J Cardiol. | Connexin 43 expression is associated with vascular activation in human radial artery. | Hoshiga M | 循環器内科 |
| Int J Cardiol. | Rabbit plaque models closely resembling lesions in human coronary artery disease. | Hoshiga M | 循環器内科 |
| J Atheroscl Thromb | Switching to aggressive statin improves vascular endothelial function in patients with stable coronary artery disease. | Hoshiga M | 循環器内科 |
| Int J Cardiol | The influence of strut thickness and cell design on immediate apposition of drug-eluting stents assessed by optical coherence tomography. | Tanigawa J | 循環器内科 |
| 日本透析医学会雑誌 | 副甲状腺ホルモン相対的低値透析症例において塩酸セベラマーを利用したカルシウム負荷軽減が骨代謝マーカーに与える影響 | 井上徹 | 腎臓内科・血液浄化センター |
| Life Sci. 2010 Feb 27;86 (9-10) :322-30. Epub 2010 Jan 7. | Efficacy of olmesartan and nifedipine on recurrent hypoxia-induced left ventricular remodeling in diabetic mice. | Hayashi T, Ukimura | 総合内科 循環器内科 |
| Hypertension. 2009 Jul;54 (1) :164-71. Epub 2009 May 26. | Chymase plays an important role in left ventricular remodeling induced by intermittent hypoxia in mice. | Hayashi T, Ukimura | 総合内科 循環器内科 |
| スポーツ精神医学 6:40-44, 2009 | 精神障がい者のスポーツ活動への意識とその効果 | 米田博 | 精神神経科 |
| 精神科 3 (3) :241-247, 2010 | リスペリドンLAIの臨床 | 康純、米田博 | 精神神経科 |
| 臨床精神薬理 6:1125-1134, 2009 | 持効性注射製剤に関する精神科医の認識 | 堀貴晴、康純 米田博 | 精神神経科 |
| Japan Medical Association Journal | Advantages and Problems with Endoscopic Surgery | Tanigawa. N. | 消化器外科 |
| Surgical Oncology | Ancillary NOTES procedures for early stage gastric cancer | Asakuma M. | 消化器外科 |
| ONCOLOGY REPORTS | Histoculture drug response assay predicts the postoperative prognosis of patients with esophageal cancer | Fujita Y. | 消化器外科 |
| Journal of hepato-biliary-pancreatic surgery | Challenges and lessons learned from NOTES cholecystectomy initial experience: a stepwise approach from the laboratory to clinical application | Asakuma M. | 消化器外科 |
| Surgical Innovation | Peroral Dual Scope for Natural Orifice Transluminal Endoscopic Surgery (NOTES) Gastrotomy Closure | Asakuma M. | 消化器外科 |
| Breast Cancer | High-resolution MR lymphography using ultrasmall superparamagnetic iron oxide (USPIO) in the evaluation of axillary lymph nodes in patients with early stage breast cancer: preliminary results | Kimura K. | 一般・乳腺・内分泌外科 |
| Cancer Chemotherapy Pharmacology | Tau expression and efficacy of paclitaxel treatment in metastatic breast cancer | Tanaka S. | 一般・乳腺・内分泌外科 |
| Surgical Endoscopy | Intracorporeal stapled anastomosis following laparoscopic segmental gastrectomy for gastric cancer: technical report and surgical outcomes | Lee S. | 消化器外科 |

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|--|---|-------------|-------------|
| Surgery | A novel method using the VIO soft-coagulation system for liver resection | Hirokawa F. | 消化器外科 |
| ONCOLOGY LETTERS | Sentinel lymph node biopsy in breast cancer patients undergoing skin /nipple-sparing mastectomy and immediate autologous reconstruction | Tanaka S. | 一般・乳腺・内分泌外科 |
| Journal of Medical Case Reports | Adenocarcinoma arising in a heterotopic pancreas (Heinrich type III): a case report | Inoue Y. | 消化器外科 |
| 日本小児循環器学会雑誌 | いわゆる'cleft'を中隔交連として温存した完全型房室中隔欠損症two-patch修復術 | 根本 慎太郎 | 心臓血管外科 |
| 日本冠疾患学会雑誌 | 【冠動脈心疾患に対する再治療戦略外科の立場から】 CABG後の再発冠動脈病変に対する戦略 PCIと手術 | 三重野 繁敏 | 心臓血管外科 |
| 胸部外科 | 小児心臓血管手術後における dexmedetomidine hydrochlorideを用いた計画的鎮静プロトコール | 佐々木 智康 | 心臓血管外科 |
| 日本小児循環器学会雑誌 | 横隔膜経由による右冠動脈バイパス再手術法 | 三重野 繁敏 | 心臓血管外科 |
| J Thorac Cardiovasc Surg | Ascending aortic injury caused by a fractured sternal wire 28 years after surgical intervention of pectus excavatum | 三重野 繁敏 | 心臓血管外科 |
| J Neuro-Oncol | Survival benefit of boron neutron capture therapy for recurrent malignant gliomas. | S. Miyatake | 脳神経外科 |
| Neuro-Onocology | Pseudoprogression in boron neutron capture therapy for malignant gliomas and meningiomas. | S. Miyatake | 脳神経外科 |
| International Journal of Oral & Maxillofacial Surgery. | Boron Neutron Capture Therapy for Papillary Cystadenocarcinoma in the Upper Lip | S. Miyatake | 脳神経外科 |
| PET /CT Book | F-BPA-PETによる脳腫瘍の病態解析と細胞選択的粒子線治療への応用 デジタルメディスン | 宮武伸一 | 脳神経外科 |
| 脳21 | “Pseudoprogression” と「硼素中性子捕捉療法」 | 宮武伸一 | 脳神経外科 |
| Biomaterials. | Delivery of sodium borocaptate to glioma cells using immunoliposome conjugated with anti-EGFR antibodies by Z7-His | Bin Feng | 脳神経外科 |
| 脳腫瘍の外科 | グリオブラストーマに対する治療戦略 (BNCT, PETによる治療効果の検討および Tailor-made化学療法を用いて) | 宮武伸一 | 脳神経外科 |
| J Neurosurg. | Phase II study of ifosfamide, carboplatin, and etoposide in patients with a first recurrence of glioblastoma multiforme. | Aoki T | 脳神経外科 |
| Brain and Nerve. | Intraoperative photo-dynamic diagnosis of brain tumors. | S. Miyatake | 脳神経外科 |
| Appl Radiat Isot | Survival benefit of boron neutron capture therapy for recurrent malignant gliomas. | S. Miyatake | 脳神経外科 |
| Appl Radiat Isot | Boron neutron capture therapy for recurrent oral cancer and metastasis of cervical lymph node | Kimura Y | 脳神経外科 |

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|-------------------------------------|---|--------------|---------|
| Appl Radiat Isot | Disposition of TF-PEG-Liposome-BSH in tumor-bearing mice | Ito Y | 脳神経外科 |
| Biomaterials | Development of a bifunctional immunoliposome system for combined drug delivery and imaging in vivo. | Bin Feng | 脳神経外科 |
| BRAIN and NERVE | 脳腫瘍に対する術中蛍光診断 | 宮武伸一 | 脳神経外科 |
| 脳21 | (グリオーマに対する手術療法と放射線療法) 脳腫瘍の蛍光標識による手術切除法の進歩 | 梶本宜永 | 脳神経外科 |
| 日本レーザー医学会誌 | 蛍光診断と外科的併用手術または PDT 併用治療での利点と問題点5-ALAによる光線力学診断における特異性、非特異性とメカニズム | 梶本宜永 | 脳神経外科 |
| Applied Radiation and Isotopes | Survival benefit from boron neutron capture therapy for the newly diagnosed glioblastoma patients | S. Kawabata | 脳神経外科 |
| 定位放射線治療 | ホウ素中性子捕捉療法による悪性神経膠腫の治療効果 | 川端信司 | 脳神経外科 |
| PETジャーナル | 放射線治療の最前線・硼素中性子捕捉療法 | 川端信司 | 脳神経外科 |
| J. Radiat. Res. (Tokyo) | Boron neutron capture therapy for newly diagnosed glioblastoma | S. Kawabata | 脳神経外科 |
| CI研究 | 18F-BPA-PETを用いた悪性脳腫瘍治療後の病態解析 | 川端信司 | 脳神経外科 |
| Neurological Research | Asialoerythropoietin attenuates neuronal cell death in the hippocampal CA1 region after transient forebrain ischemia in a gerbil model | T. Yamashita | 脳神経外科 |
| 脳21 | グリオーマに対する中性子捕捉療法 | 川端信司 | 脳神経外科 |
| J Bone Joint Surg Am | Radiographic measurements in patients with hallux valgus before and after proximal crescentic osteotomy. | 嶋 洋明 | 整形外科 |
| J Bone Joint Surg Am | Postoperative incomplete reduction of the sesamoids as a risk factor for recurrence of hallux valgus. | 奥田 龍三 | 整形外科 |
| Spine | Adjacent vertebral body fracture following vertebroplasty with polymethylmethacrylate or calcium phosphate cement: Biomechanical evaluation of the cadaveric spine. | 納田 真也 | 整形外科 |
| American Journal of Sports Medicine | Effect of Rotator Cuff Muscle Imbalance on Forceful Internal Impingement and Peel-back of the Superior Labrum: A Cadaveric Study | 三幡 輝久 | 整形外科 |
| Modern Rheumatology | A comparative study of the effects of bucillamine and salazosulfapyridine in the treatment of rheumatoid arthritis. | 中島 幹雄 | 整形外科 |
| Leukemia & Lymphoma | Reduced plasma all-trans retinoic acid level in a patient with Crohn's disease with acute promyelocytic leukemia | 瀧谷 公隆 | 一般小児科 |
| Arch Dis Child Fetal Neonatal Ed | Association of gastric fluid microbes at birth with severe bronchopulmonary dysplasia | 大植慎也 | 一般小児科 |

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|--|---------------|---------------------|
| Acta Paediatr | Quantitative study on cerebral blood volume determined by a near-infrared spectroscopy during postural change in children | 金 泰子 | 一般小児科 |
| J Atheroscler Thromb | Involvement of vascular angiotensin II-forming enzymes in the progression of aortic abdominal aneurysms in angiotensin II-infused ApoE-deficient mice | 井上奈緒 | 一般小児科 |
| Int J Clin Oncol 14P56-62, 2009 | Long-term follow-up of neoadjuvant intraarterial chemotherapy using an original four-lumen double balloon (4L-DB) catheter for locally advanced uterine cervical cancer. | Terai Y | 婦人科・腫瘍科 |
| Bulletin of the Osaka Medical College 55 (1) :1-7, 2009 | Effectiveness of Laparoscopic Surgery Against Antibiotics-resistant Pelvic Inflammatory Disease | Y. YAMASHITA | 産科・内分泌科 |
| Fertil Steril. 91 (3), P936e. 13-15, 2009 | Successful pregnancy after conservative surgery for stage IA endometrial cancer in a young woman. | Yasuda M | 婦人科・腫瘍科 |
| Fertility and Sterility vol. 91, No3, March 2009 | A case of a methotrexate-resistant ectopic pregnancy in which dactinomycin was effective as a second-line chemotherapy | Satoe Fujioka | 産科・内分泌科 /婦人科・腫瘍科 |
| J Physiol. 587 (10) :2233- 53 | Functional KATP channels in the rat retinal microvasculature: topographical distribution, redox regulation, spermine modulation and diabetic alteration. | 石崎英介 | 眼科 |
| Arch Ophthalmol. 127 (4) :454-9. | Effect of unoprostone on topographic and blood flow changes in the ischemic optic nerve head of rabbits. | 杉山哲也 | 眼科 |
| Exp Eye Res. 89 (5) :693-9. | Involvement of NADPH oxidase and protein kinase C in endothelin-1-induced superoxide production in retinal microvessels. | 松尾純子 | 眼科 |
| Mol Vis. 2009;15:2029- 36. | Effects of mitomycin C on the expression of chymase and mast cells in the conjunctival scar of a monkey trabeculectomy model. | 岡田康平 | 眼科 |
| Mol Vis. 2009;15:2663- 72. | Extracellular SOD and VEGF are increased in vitreous bodies from proliferative diabetic retinopathy patients. | 杉山哲也 | 眼科 |
| Acta Ophthalmol. 87 (7) :780- 3. | Shift of temporal responsivity curve of pattern reversal visually evoked potentials to lower frequencies in patients after recovery from optic neuritis. | 奥野高司 | 眼科 |
| Acta Ophthalmol. 87 (7) : 797-800 | Changes in optic nerve head blood flow induced by the combined therapy of latanoprost and beta blockers. | 杉山哲也 | 眼科 |
| Neuro-Ophthalmology 33: (5) :257-60. | Acute Infarction at the opto-chiasmal junction detected by diffusion weighted magnetic resonance imaging. | 奥 英弘 | 眼科 |
| Molecular Vision. 16:130-6. | Proliferative diabetic retinopathy and relations among antioxidant activity, oxidative stress, and VEGF in the vitreous body. | 杉山哲也 | 眼科 |
| J Ocular Pharmacology and Therapeutics. 26 (2) : 187-192. | A Pilot Study for the Effects of Donepezil Therapy on Cerebral and Optic Nerve Head Blood Flow, Visual Field Defect in Normal-Tension Glaucoma. | 吉田由紀子 | 眼科 |
| Jpn J Ophthalmol. 54:135-139. | Magnetic Resonance Imaging Findings of Terson's Syndrome Suggesting a Possible Vitreous Hemorrhage Mechanism. | 坂本理之 | 眼科 |
| 日眼会誌113 (9) :901-5. | 重症糖尿病網膜症における硝子体手術前の汎網膜光凝固の効果. | 福本雅格 | 眼科 |
| 臨眼63 (6) :909-13 | 難治性緑内障に対する濾過手術にEx-PRESSTMを用いた一症例. | 柴田真帆 | 眼科 |

| 雑誌名 | 題名 | 発表者氏名 | 所属部門 |
|---|---|--------------------|-------|
| 臨眼63(12):1783-9. | 白内障術前に診断が困難であった無色素性網膜色素変性の1例. | 服部秀嗣 | 眼科 |
| 臨眼63(12):1797-802. | 外転神経麻痺を初発とし,うっ血乳頭,全身所見を呈した肥厚性硬膜炎の1例. | 荻田小夜子 | 眼科 |
| 眼臨紀2(6):512-5. | 分娩外傷既往眼に伴った急性緑内障発作の1例. | 飯田知子 | 眼科 |
| 眼科51(9):169-73. | 周辺部網膜血管腫に対し PDTを施行したvon Hippel病の1例. | 佐藤孝樹 | 眼科 |
| あたらしい眼科 26(4):538-41. | 潰瘍性大腸炎に真菌性眼内炎と汎ぶどう膜炎を合併した1例. | 石崎英介 | 眼科 |
| あたらしい眼科 26(8):1122-5. | ラタノプロスト単独点眼からチモロール・ドルゾラミド併用点眼へ切り替え時の眼圧,視神経乳頭血流の変化. | 小嶋祥太 | 眼科 |
| あたらしい眼科 26(11):1561-5. | 長期間経過観察を行った遅発性中心性輪紋状脈絡膜ジストロフィと考えられた1例. | 奥野高司 | 眼科 |
| あたらしい眼科 26(12):1683-6. | 角膜内皮移植術中に高眼圧を生じた1例. | 清水一弘 | 眼科 |
| Allergology International 58, 255-60 | Allergic Potency of Japanese cedar pollen Cry j 1 is reduced by a low concentration of hypochlorous acid generated by electrolysis. | Terada T | 耳鼻咽喉科 |
| Otology & Neurotology 30, 478-83 | Postoperative aeration in the middle ear and hearing outcome after canal wall down tympanoplasty with soft-wall reconstruction for cholesteatoma. | Haginomori S | 耳鼻咽喉科 |
| Auris Nasus Larynx 36, 461-5 | Ultrasonography for preoperative localization of enlarged parathyroid glands in secondary hyperparathyroidism. | Kawata R | 耳鼻咽喉科 |
| Laryngoscope 119, 2437-40 | Endoscopy-assisted surgery with topical mitomycin for a cholesterol granuloma in the petrous apex. | Haginomori S | 耳鼻咽喉科 |
| Acta Oto-laryngologica 130, 161-166 | Diagnostic criteria of ultrasonographic examination for lateral node metastasis of papillary thyroid carcinoma. | Lee K | 耳鼻咽喉科 |
| Otolaryngology-Head and Neck Surgery 142, 148-9 | Resection by a lateral pharyngotomy approach. | Kawata R | 耳鼻咽喉科 |
| Acta Oto-laryngologica 130, 286-292 | Indication of elective neck dissection for NO carcinoma of the parotid gland: A single institution's 20-year experience. | Kawata R | 耳鼻咽喉科 |
| 日本レーザー医学会誌 29: 383-387, 2009 | 表在性皮膚悪性腫瘍に対する光線力学療法 スーパーライザーを用いた症例の検討 | 森脇真一 | 皮膚科 |
| J Dermatol 36:598-603, 2009 | A case of cutaneous malignant melanoma surviving 16 years with late recurrence. | Moriwaki S | 皮膚科 |
| J Invest Dermatol, in press. | Novel XPA Gene Mutations Resulting in Subtle Truncation of Protein in Xeroderma Pigmentosum Group A Patients with Mild Skin Symptoms. | Moriwaki S | 皮膚科 |
| American Journal of Roentgenology 192:635-638 | Evaluation of a Body Mass Index-Adapted Protocol for Low-Dose 64-MDCT Coronary Angiography with Prospective ECG Triggering | Fuminari Tatsugami | 放射線科 |

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|--|---|--------------------|---------|
| Academic Radiology 17 (2) : 207-211 | Feasibility of Low-Volume Injections of Contrast Material with a Body Weight-Adapted Iodine-Dose Protocol in 320-Detector Row Coronary CT Angiography | Fuminari Tatsugami | 放射線科 |
| 麻酔 58: 342-345, 2009. | 気管挿管に使用する潤滑剤による術後咽頭痛および嘔声の発生頻度の検討 | 洪里和良 | 麻酔科 |
| 麻酔 58: 897-902, 2009. | 小児開心術における重炭酸リンゲル液の有用性 | 浅野真依子 | 麻酔科 |
| PEPARS | 【口唇裂二次修正術】 外鼻 逆U切開による外鼻修正術 | 上田晃一 | 形成外科 |
| 日本マイクロ会誌 | 長い血管茎を有する逆行性静脈皮弁を用いた手部軟部組織再建 | 杉田直哉 | 形成外科 |
| 形成外科 | 頭蓋骨欠損を伴うnasal gliomaの1例 | 黒川憲史 | 形成外科 |
| PEPARS | 【頭部・顔面の画像診断と手術シミュレーション】 三次元実体モデルを用いた頭頸部再建 | 塗隆志 | 形成外科 |
| PEPARS | 【頭部・顔面の画像診断と手術シミュレーション】 顔面骨骨折の画像診断 | 大場創介 | 形成外科 |
| 大阪医科大学雑誌 | 形質細胞様樹状細胞のケモカインレセプター-CCR7依存的、恒常的リンパ節への移住 | 大谷一弘 | 形成外科 |
| 大阪形成外科医会雑誌 | 過去10年間の顎口腔底再建と腭骨皮弁合併症例について | 大谷一弘 | 形成外科 |
| J Craniofac Surg | External ear reconstruction in hemifacial microsomia | A. Yamada | 形成外科 |
| J Plast Reconstr Aesthet Surg | Functional reconstruction of the upper and lower lips and commissure with a forearm flap combined with a free gracilis muscle transfer | K. Ueda | 形成外科 |
| J Plast Reconstr Aesthet Surg | Improvement of the maxillary bone growth suppression in the cleft palate operation with cultured dermal substitute: animal experiment and patient reports in preliminary clinical application | N. Kurokawa | 形成外科 |
| J Plast Reconstr Aesthet Surg | Lambda incision for effective tissue expansion | K. Ueda | 形成外科 |
| J Craniofac Surg | New training method of creating ear framework by using precise copy of costal cartilage | A. Yamada | 形成外科 |
| J Craniofac Surg | Open approach via the nasal dorsum with dermal graft for bifid nose | N. Kurokawa | 形成外科 |
| Lasers Med Sci | Possible roles of mast cell-derived chymase for skin rejuvenation | N. Amano | 形成外科 |
| Cancer Immunol Immunother | Rejection of intradermally injected syngeneic tumor cells from mice by specific elimination of tumor-associated macrophages with liposome-encapsulated dichloromethylene diphosphonate, followed by induction of CD11b(+)/CCR3(-)/Gr-1(-) cells cytotoxic against the tumor cells | T. Takahashi | 形成外科 |

| 雑 誌 名 | 題 名 | 発 表 者 氏 名 | 所 属 部 門 |
|---|--|-----------------|------------|
| Congenit Anom | Association of tenascin-W expression with mineralization in mouse calvarial development. | Mikura A | 形成外科 |
| Bulletin of the Osaka Medical College | Anthropometric study of ear position and its clinical application to the external ear reconstruction. | Yamada A | 形成外科 |
| Applied Radiation and Isotopes 67 (2009) S47-S49 | Boron neutron capture therapy for recurrent oral cancer and metastasis of cervical lymph node. | Y. Kimura | 歯科口腔外科 |
| Applied Radiation and Isotopes 67 (2009) S109-S111 | Disposition of TF-PEG-Liposome-BSH in tumor-bearing mice. | Y. Ito | 歯科口腔外科 |
| BULLETIN OF THE OSAKA MEDICAL COLLEGE 55 (1) (2009) 21-29 | Delivery of sodium Borocaptate (BSH) to Oral Squamous Cell Carcinoma Cells by Transferrin-PEG Liposomes | T. SHIMAHARA | 歯科口腔外科 |
| 慢性疼痛 | 腰痛症に対するリハビリテーションのエビデンス | 田中一成 | リハビリテーション科 |
| Disability and Rehabilitation: Assistive Technology | A simple and useful hand orthosis for patients with amyotrophic lateral sclerosis: A simple web spacer for thumb opposition weakness | Kazunari Tanaka | リハビリテーション科 |
| Arthritis & Rheumatism | MicroRNA-124a Is a Key Regulator of Proliferation and Monocyte Chemoattractant Protein 1 Secretion in Fibroblast-like Synoviocytes From Patients With Rheumatoid Arthritis | Ryuichi Saura | リハビリテーション科 |
| 日本職業・災害医学会会誌 | メタボリックシンドロームに対するリハビリテーション医療介入 | 田中一成 | リハビリテーション科 |
| Jpn J Clin Oncol | A phase 2 clinical trial of panitumumab monotherapy in Japanese patients with metastatic colorectal cancer. | Takiuchi H | 化学療法センター |
| Lancet Oncol | Fluorouracil versus combination of irinotecan plus cisplatin versus S-1 in metastatic gastric cancer: a randomised phase 3 study. | Takiuchi H | 化学療法センター |
| Ann Oncol | Phase II study of oxaliplatin plus S-1 as first-line treatment for advanced gastric cancer (G-SOX study). | Takiuchi H | 化学療法センター |

小計
12計
142

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

| | | |
|---------|---|--|
| 管理責任者氏名 | 病院長 木下 光雄 | |
| 管理担当者氏名 | 診療情報管理室長 佐浦 隆一 中央放射線部長 鳴海 善文 医療安全対策室長 村尾 仁 病院事務部長 三宅 努 病院事務部医事課長代理 中谷 尚文 医薬品安全管理責任者 西原 雅美 医療機器安全管理責任者 岩崎 孝敏 | 病院薬剤部長 玉井 浩 病院医療相談部長 樋口 和秀 感染対策室長 浮村 聡 総務部長代理 門田 雅人 病院事務部庶務課長 岩橋 朗 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|--|--|--|------------|
| 診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | | 病院事務部庶務課 病院事務部医事課 診療情報管理室 中央放射線部 病院薬剤部 | 年度別に分類している |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 総務部人事課 | |
| | 高度の医療の実績 | 病院事務部医事課 診療情報管理室 | |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 各診療科及び 病院薬剤部 | |
| | 高度の医療の研修の実績 | 各診療科 | |
| | 閲覧実績 | 病院事務部医事課 診療情報管理室 | |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 各診療科 | |
| | 入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 病院事務部医事課 及び病院薬剤部 | |
| 項規 第一 第一 号に 掲げ る十 一第 一制 の項 各号 の及 び状 況第 九条 の二 十三 第一 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療安全対策室 | |
| | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療安全対策室 | |
| | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療安全対策室 | |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全対策室 | |
| | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 医療安全対策室 | |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 感染対策室 | |
| | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 医療安全対策室 | |
| | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 病院医療相談部及び 医療安全対策室 | |

(様式第12)

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|---------------|--|---|-------|
| 病院の管理及び諸記録の運管 | 規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 感染対策室 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染対策室 |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染対策室 |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染対策室 |
| | | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 病院薬剤部 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 病院薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 病院薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 病院薬剤部 |
| | | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 臨床工学室 |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 臨床工学室 |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 臨床工学室 |
| | | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 臨床工学室 |

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | |
|-------------|--|
| 閲覧責任者氏名 | 病院事務部長 三宅 努 |
| 閲覧担当者氏名 | 病院医療相談部 樋口 和秀、診療情報管理室 佐浦 隆一 病院事務部庶務課 岩橋 朗 |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 病院医療相談部、診療情報管理室、庶務課 |

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 0件 |
| | 歯科医師 | 延 0件 |
| | 国 | 延 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 0件 |

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

| | | | |
|------|------------------------|---------|------------------------|
| 紹介率 | 66.3 % | 算定期間 | 平成21年4月1日 ~ 平成22年3月31日 |
| 算出根拠 | A: 紹介患者の数 | 15,985人 | |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 12,502人 | |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | 944人 | |
| | D: 初診の患者の数 | 31,878人 | |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

| | |
|--|-------------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有 ・ 無 |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当院における安全管理に関する基本的考え方 2. 医療に係る安全管理のための委員会および当院の組織に関する基本的事項 3. 医療に係る従業者等への教育・研修に関する基本方針 4. 本院における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 7. 患者からの相談に対する基本方針 8. その他の医療安全推進のために必要な基本方針 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年 12 回 |
| <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全の確保と安全の推進に関わる検討課題について審議 2. 事故調査委員会や業務改善委員会の報告を受け検討内容や改善策を検証 3. 重大事故発生時の原因分析、改善策の立案の検証と院内周知 4. 事故防止対策の実施状況の検証と評価 5. 医療安全に関する教育・研修および啓発活動の検証 6. その他の関連事項 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 5 回以上 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入職者に対する医療安全教育 2. 事例検討会（3回） 3. 特別講演会（2回）・「安全に繋がる接遇」「医療訴訟ガイドンス」 4. リスクマネージャー宿泊研修 5. マニュアル説明会 | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 有 ・ 無 |
| <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故防止のため、状況に応じて現場を巡回し、情報収集や分析を行い再発防止策を共に検討する 2. 患者影響レベル3 b以上の全事例に対しては事故調査委員会を開催し院内で事例の共有を図る 3. 発生した事故に対する問題点と課題を明確にし、再発防止のための業務改善委員会を立ち上げ、指針やマニュアルの作成や改訂を行う 4. 作成したマニュアルや指針の周知を図るために説明会を開催する 5. 医療安全対策室と診療や部門との連携強化のためのリスクマネージャー会議の開催 6. ホームページ・ニュースレターを活用した情報発信 | |
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 有（ 5 名） ・ 無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有（ 3 名） ・ 無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 有 ・ 無 |
| <p>・ 所属職員： 専任（ 5 ）名 兼任（ 12 ）名 （医療安全推進部）</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全に関する報告書からの情報収集と集計及び分析を行い、関連部署に情報提供する。 2. 安全対策についての問題点を把握し、改善策の企画立案やその実施状況の評価する。 3. 医療の安全管理の体制確保および推進のための課題を検討する。 4. 安全対策に関するマニュアル等の具体的な検討及び見直しをする。 | |

(様式第13-2)

5. 医療安全に係わる職員への教育・研修を企画・実施する。
6. 感染対策室と密接な連携をとり、院内感染防止に努める。
7. 医薬品安全管理責任者と密接な連携をとり、医薬品の安全確保に努める。
8. 医療機器安全管理責任者と密接な連携をとり、医療機器の安全使用の確保に努める。
9. 安全管理委員会及び事故調査委員会等の委員会の庶務を行う。
10. 安全に関する報告書からの情報収集と集計及び分析を行い、関連部署に情報提供する。
11. 医療事故発生時の現状確認及び現場の支援を行い、医療安全推進部長に速やかに報告する。
12. 医療事故発生時の診療録の記載に関する指導助言を行う。
13. 医療事故発生時には患者及び家族への説明や対応が適切に実施されるように指導を行う。
14. 医療事故に関する原因究明と再発防止への取り組みについて指導を行う。
15. 医療安全に係る講演会、事例検討会を企画・開催する。
16. 安全対策マニュアル・ポケットマニュアルを改訂する。
17. 医療安全対策室からの情報提供 ニュースレターの発行、ホームページの更新
18. 院内各部門との連携

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況

① 有 ・ 無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|---------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | (有) ・ 無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策の為の委員会、その他本院の組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策の為の職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の本院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 | |
| ② 院内感染のための委員会の開催状況 | 年 12 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の防止に関わる検討課題について審議する 2. 院内感染が発生したときは、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施、並びに従事者への周知を図る 3. 重要な検討内容について、院内感染発生時および発生が疑われる場合の対応状況を含めて審議する 4. 感染対策についてマニュアル等の検討および見直しをする 5. 感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う 6. 院内感染に関する教育および啓発に関する活動内容について検討する 7. その他、感染対策に監視、活動の必要が生じたときは、関係各署と連携を図り適切に審議する | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 4～5 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 平成22年度内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. すべてのスタッフに必要なスキル『標準予防策』 CDCガイドラインの説明から手洗いや速乾性アルコール製剤の使用、手洗いの方法からコストとの関連まで楽しくわかりやすく伝えた研修内容 2. 結核の院内感染対策 本院での事例の詳細を報告するとともに、基礎知識、院内感染リスク、リスク軽減のための方策などの研修内容 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ①地域における菌検出状況、抗生剤の適正使用など院外講師による講演会(10月5日開催) ②秋冬に向けて流行する感染症(ノロ、インフルエンザなど)(11月15日開催) | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 週1回、院内感染情報レポートを作成し病院上層部へ発生状況の報告を行う 2. 各種小委員会、担当者会議等、会議を通して発生状況の報告を行う 3. 定期的なサーベイランスおよび病棟巡回を通じて院内感染対策活動の推進と改善とともに、適正な抗菌薬の使用についての介入を実施している 4. ICTニュースを全部署に配布し、院内感染対策の推進を行う | |

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | ○有 ・ 無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 65 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全に係る職員研修（医療安全推進部主催の事例検討会） 医薬品安全管理に関する事例検討 ―薬剤関連の重大な医療事故報道事例より― ・ 閉鎖式薬物混合器具（ファシール）使用説明会（対象：薬剤師、医師、看護師） ・ デュロテップMTパッチの適正使用（「慢性疼痛適応追加」、対象：医師、薬剤師） ・ 中央手術室における薬品の安全管理（対象：新人薬剤師、看護師） ・ 静脈注射に関する薬剤知識（対象：新人・中堅看護師） | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| <p>・ 手順書の作成 ○有 ・ 無</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 3. 病棟・各部門への医薬品の供給に関する事項 4. 患者に対する医薬品の使用（処方・調剤・服薬指導など）に関する事項 5. 医薬品情報の収集・管理・提供に関する事項 6. 他施設（病院・薬局等）との連携に関する事項 | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ○有 ・ 無</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働省新着情報配信サービス・医薬品医療機器情報提供HPなどWEBによる情報収集、製薬メーカー・卸などから直接的に情報収集 2. 情報入手当日もしくは翌日の薬剤部内朝礼で情報伝達 3. 緊急性に応じて「薬剤部情報」「緊急薬剤部情報」を作成し院内各部署へ配布 4. 院内版薬剤部HPに新着情報掲載→処方オーダーシステムとのリンク 5. 処方医師に確実に伝達が必要な場合には、処方医リストを作成しDI室から直接処方医、該当する診療科の薬事委員に連絡すると共に、病棟薬剤師が個別に情報伝達 | |

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|----------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | ① 有 ・ 無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 2 回 以上 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>輸液ポンプ・シリンジポンプについて 人工呼吸および人工呼吸器について 放射線業務従事者のための教育訓練講習会 医療機器に係る事例検討会の実施 その他</p> | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <p>・ 計画の作成 (① 有) ・ 無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>特定保守医療機器に対しては、年1～2回のメーカー点検を実施。(特に生命維持装置) 日常点検・定期(3～6ヶ月)点検に関しては、院内で実施し、記録保管。 放射線治療器に関しては、保守契約により点検がなされている。</p> | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (① 有) ・ 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ホームページの活用 <ol style="list-style-type: none"> ① 医療機器に関する情報提供サイトへのリンク ② 医療機器に関する情報の掲示 ③ 主要機器の取扱説明書の閲覧 2. 情報紙の定期発行 3. 中央管理ソフトの導入 <ol style="list-style-type: none"> ① 使用状況のより正確な把握 ② 安全使用に関する情報の一括化(長期使用、点検時期など) | |